

2005

環境・社会報告書



- トップメッセージ 3
- 会社概要 5
- 企業理念と CSR について 7

環境報告

- 環境マネジメント 10
 - 環境方針 10
 - 企業活動と環境への影響 10
 - 環境ニューボランティアプラン 11
 - 組織体制 11
 - 環境マネジメントシステムの状況 11
 - 環境監査 12
 - 全社統一の監査 12
 - 環境教育 14
 - 環境会計 15
 - 2004 年度実績総括と 2005 年度計画 17
 - 【参考】富士重工業環境保全取り組み計画 19
 - 環境事故など 21
 - 環境コミュニケーション 21
- 開発段階・商品 22
 - 自動車部門
 - 燃費 22
 - 排出ガス 23
 - 【参考】平成22年度燃費基準値、排出ガス規制値 25
 - クリーンエネルギー自動車 26
 - 省エネルギー型ガソリンエンジンの産・学・官共同開発 26
 - 騒音 27

- LCA の取り組み 27
- 航空宇宙・産業機器
- エコテクノロジー/クリーン事業部門
 - 航空宇宙カンパニー 28
 - 産業機器カンパニー 29
 - エコテクノロジーカンパニー 30
 - クリーン事業 31
- 生産段階 32
 - 廃棄物削減 32
 - 水使用量低減の取り組み 33
 - 地球温暖化防止(省エネルギー) 34
 - 化学物質管理(PRTR 制度) 34
 - 環境負荷物質の低減 35
 - グリーン調達 35
 - 【トピックス】宇都宮製作所コージェネレーションシステム 36
- リサイクル 37
 - 基本的な考え方 37
 - 自動車リサイクル法 37
 - 設計段階 39
 - 生産段階 40
 - 販売・サービス段階 41
 - 廃棄段階 41
- 物流段階 44
 - 完成車輸送における環境負荷の低減 44
 - 補修用部品輸送における環境負荷の低減 44
 - 海外向けノックダウン部品梱包資材の削減 44

2004 年度 トピックス

関係会社における活動 -海外関係会社- (50 ページ)



カナダにおけるスバル車の販売拠点である SCI と米国における販売拠点の SOA で環境マネジメントシステムの構築に取り組み、それぞれ 2005 年 1 月、2 月に ISO14001 の認証を取得しました。

生産段階 (36 ページ)



2005 年 2 月、宇都宮製作所(エコテクノロジーカンパニー、航空宇宙カンパニー)にて、6000kW クラスの天然ガスコージェネレーションシステムが稼動を開始しました。地球温暖化の防止に向け一層の取り組みを推進しています。

開発段階・商品 (22 ページ)



2005 年 1 月に 24.0km/ℓ というクラストップレベルの環境性能と優れた走行性能を両立した新型軽自動車スバル「R1」を発売しました。国土交通省平成17年基準排出ガス50%低減レベル、及び平成22年度燃費基準+5%を達成しました。

社会とのかかわりにおいて (65 ページ)



7 月 6 日に、太田市立^{にらがわ}華川西小学校の 5 年生を対象に授業の一環として「スバル環境交流会」を実施しました。交流会では、映画上映、実験、クイズなどが盛り込まれ生徒に大好評でした。

関係会社における活動	45
国内関係会社	
国内関連企業部会	45
国内関連企業部会全社で ISO14001 認証を取得	45
国内関連企業部会 6 社の 2004 年度実績	46
海外関係会社	
北米 5 社の環境負荷の全体像	47
北米企業の環境会計	48
各社の環境への取り組み	48
社会貢献活動	49
【トピックス】スバル販売拠点で ISO14001 の認証を取得	50
【トピックス】SIAにおける資源循環を目指した活動	51

社会性報告

コンプライアンス	53
基本的な考え方	53
体制と運営	53
2004 年度コンプライアンス活動実績の概要	54
お客様とのかかわりにおいて	55
安全なクルマづくり	55
人にやさしいクルマづくり	56
お客様に満足いただくために	57
従業員とのかかわりにおいて	59
雇用	59
人材育成	60
福利厚生	60

安全衛生・健康	60
社会とのかかわりにおいて	62
社会貢献活動	62
地域活動	64
各種イベントへの協力、寄贈・支援	64
受賞など	65

資料編

工場サイトデータ	66
群馬製作所	66
宇都宮製作所	68
産業機器カンパニー	69
東京事業所	69
商品データ	70
自動車	70
汎用エンジン	71
その他のデータ	71
環境への取り組みの歴史	72

◆ この『2005 年 環境・社会性報告書』では、『2004 年度 環境・社会性報告』に対して次の内容を追加して記載しております。

1. 持続的発展のために、企業の社会的責任への取り組み (CSR) が要求されつつあり、当社としての CSR への取り組みの考え方をまとめました。
2. 2004 年度の主な話題を目次のページにまとめました。

はじめに

◆ 本「環境・社会報告書」について

● 報告対象範囲

2004 年度(2004 年 4 月～2005 年 3 月)の主として環境保全に関する取り組み及び、社会性に関する取り組み(コンプライアンス、お客様とのかかわりにおいて、従業員とのかかわりにおいて、社会とのかかわりにおいてなど)の実績を記載しております。なお、ご説明の関係から2005年度初めの実績も一部含んでいます。

主に日本における富士重工の事業活動ですが、当社グループとしての取り組みもご紹介するため、国内連結対象会社の中で、環境負荷が多いとされる製造・物流に
関与する企業6社についての活動実績も記載しました。また、北米の関係会社5社で構成する北米環境委員会の活動も記載しております。

● 参考としたガイドライン

- 環境省「環境報告書ガイドライン」(2000 年度版、2003 年度版)
- 環境省「環境会計ガイドライン」(2000 年度版、2002 年度版、2005 年度版)

● 次回発行予定

- 前回の発行は 2004 年 6 月でした。次回は 2006 年夏ごろを予定しております。

